

5

サレルノ医学校——その歴史と意義

坂井 建雄

順天堂大学医学研究科 解剖学・生体構造科学

サレルノ医学校 Schola medica salernitana は10～13世紀に発展して多くの医師を育て、その名声はヨーロッパ中に広まった。しかしその起源や歴史は謎に包まれている。起源についてさまざまな説が出されたが、最初の確実な言及が985年のヴェルダンの年代記に見出され、サレルノ医学校は10世紀後半に始まったと考えられる。

初期段階のサレルノ医学校は弟子を育てる医師の緩やかな共同体であったと考えられる。学校組織に関する直接の資料はなく、残された医学文書をもとに3期に区分されている。早期(10世紀後半～11世紀末)には、ガリオポントゥスが『受難録』を著し、コンスタンティヌス・アフリカヌスが多数のアラビア語の医学文献をラテン語に翻訳した。医学教材集の『アルティセラ Articella』が編まれた。盛期(11世紀末～12世紀末)には、『アルティセラ』の文書にバルトロマエウス、マウルス、ムサンディヌスといった教師が多数の注釈を残しており、授業のテキストとして広く用いられた。『ニコラウスの解毒薬』などの薬剤書が書かれ、また何人もの医師が医学実地書を著した。動物解剖も行われた。盛期サレルノの医学文書は「プレスラウ手稿」などとして残されている。晩期(12世紀末～13世紀中葉)には、医学文書の著作活動は次第に低調になったが、サレルノで学んだ多くの医師がヨーロッパ各地で活躍しサレルノの名声はなお高まった。有名な『サレルノ養生訓』は養生法について述べた韻文集で、13世紀後半以後に成立した。サレルノ医学校の影響を強く受けているが、サレルノで編まれたかどうかは不明である。『サレルノ問題集』は自然哲学についての問答集で、1200年頃にサレルノの影響を受けたイギリスの学者の手で作られた。

13世紀中葉以後にサレルノ医学校では学校組織が形成され、直接的な資料が残されるようになった。フリードリヒ2世による1231年のメルフィ憲章で、医師候補者はサレルノ医学校の教師の前で公開試験を受け、王またはその代理から免許を受けると定められた。14世紀初頭には、教授の俸給が学生の授業料ではなく国税から支払われるようになった。1442年には教授組合が設立され、博士の学位を与える権利を得た。16世紀末に学芸、医学、法律を中心としたサレルノ大学が発足したが、1811年にナポレオン占領下に廃止された。

サレルノ医学校では実地に即した医学教育が行われ、新たな教材が生み出されて、その後のヨーロッパの医学教育に大きな影響を与えた。『アルティセラ』は医学理論の教材集で、ヨーロッパ各地に広まり16世紀前半まで用いられ、13世紀末から使われるようになったアヴィケンナの『医学典範』と並行して用いられ、16世紀中葉に現れた『医学教程』などと題する医学理論書に置き換えられるようになった。サレルノ医学校が生み出したもう一つの『医学実地』書は、頭から足まで部位別の疾患と全身性の熱病を扱い、このスタイルが18世紀末まで受け継がれ、数多くの医学実地書が出版された。医学理論 *theoria* と医学実地 *practica* は、中世から18世紀までヨーロッパの大学で医学教育の中心となった2つの科目であり、サレルノ医学校はその出発点となった。